

雲南地区日韓親善協会が韓国訪問

友好交流の確かな一歩踏み出す



10月9～12日の日程で、雲南地区日韓親善協会（陶山吉朗会長）の訪韓団が友好親善交流を目的に、韓国を初訪問しました。訪韓団は、陶山会長を団長に同協会役員や会員で構成され、在日韓国民団県地方本部の李燮潤（イ・ソビユン）団長、速水市長や吾郷市議会議長ら総勢19人。

10月10日、今回の最大の目的である慶尚北道の清道郡（チヨンドゴン）への公式訪問では、清道郡庁舎に「歓迎」の大きな横断幕が掲げられ、玄関前に記帳台が設けられるなど大歓迎を受けました。

庁舎内で開かれた歓迎式典で、金忠燮（キム・チュンソプ）清道郡守権限代行副郡守が「ともに第一歩を踏み出



して、未来に向かって進んでいきましょう」と、訪韓団を歓迎すると、陶山会長も「今回の訪問が、将来の清道郡と雲南市との友好交流の第一歩となることを心から願っている」とあいさつしました。

式典の後、記念撮影や昼食会を行い、出席者は終始友好ムードで語らい、まさに「友好交流の第一歩」となりました。このほか、オンヌリ国楽芸術団の拠点施設訪問や大邱（テグ）広域市での韓国如己の会主催の歓迎夕食会出席など、訪韓団は精力的に日韓親善交流を行い、成功裏に全日程を終えました。

島根三洋第3工場起工式

太陽電池セル製造拠点の機能を強化

10月27日、島根三洋電機株式会社（木次町山方）で、太陽電池セル製造拠点となる第3工場の起工式が行われました。

親会社である三洋電機株式会社（大阪府）は、従来の総合家電メーカーからの脱却を図り、環境エネルギーなどのコア事業に特化した製品生産体制の確立を推進。特に国内外で需要が高い太陽電池については、生産拠点となる「二色の浜工場（大阪府）」と「島根三洋」の機能を強化し、増産をめざす事業拡大戦略を打ち出しています。



上部が今回建設される第3工場完成予想図

これに伴い、現在の工場の隣接地に約100億円を投じ建設される新工場（鉄骨3階建、延べ床面積15,000㎡）は、来年6月に完成予定。12月から量産が開始されると生産能力は現在の約3倍となります。また、新工場の本格稼働に備え、新たに約75人の社員採用も予定されています。

合併以降「実効力のある産業政策や雇用機会の創出」を望む住民の皆さまからの意見・要望が高く、「雲南市産業振興ビジョン」の策定や専門的機関

となる産業振興センターの設置など、地域経済活性化に向けた取り組みを進めている市としても、島根三洋の工場増設決定は大きな喜びとなりました。起工式に出席し、あいさつした速水市長は、そうした市の状況を踏まえながら「地域の雇用拡大や定住促進に大きな影響を与えるもの」と感謝の言葉を述べ、市内経済の活性化と同社のさらなる飛躍を祈念しました。

雲南ニュース



拉致被害者家族連絡会副代表 蓮池透さん

10月20日、三刀屋文化体育館アスパルでヒューマンフェスタ2007が開催され、1,500人の参加者らが講演会や各種催しを通して、生命の尊さや差別のない明るく住みよい社会の実現について学び、考えました。

オープニングには田井保所（吉田町）の園児らが来、2つの国のはざまで翻弄（ほんろう）され続けた家族の悲痛な叫びを参加者600人に伝え、「拉致問題解決のため、これからも支援してほしい」と訴えました。

また、ロビーでは、楽しみながら人権感覚を高めることのできる各種コーナーが設置され、親子連れなどが参加していました。



NPO法人サイクリストビュ（松江市）が主催する「雲南MTBチャレンジ2007」が斐伊川河川敷などを会場に行われました。過酷な「ヒルクライム」に加え、「シクロクロス」や「3時間耐久レース」、「自転車さんぽ」と多様な部門が準備された今年の大会には延べ55人が参加、その体力と技術を競いました。

奥出雲の霊峰「鯛の巣山」を舞台に行われた「ヒルクライム」には12人がエントリー。20%を越す急勾配に加え、コース上には倒木などもある全長7km、標高差



600mの難コースに挑み、全員が見事に走破しました。

斐伊川河川敷で行われた「3時間耐久レース」には県内外から22人が出場。設置された特設コースには、ブッシュや障害物、砂地など選手的能力を試すためのポイントが配置されていました。特に川の地形を上手く利用し設置された砂地を走行する際には、車輪にかかる抵抗から思うようにペダルを踏むことができず、選手たちは悪戦苦闘しながらも懸命に悪路に挑んでいました。

雲南市長の「コラム」

10月11日から14日まで、第9回全国共進会が鳥取県米子市で開催されました。雲南市からは島根県代表として、木次の山根智恵子さんの「はなみづき号」、三刀屋の石飛由一さんの「まさふく号」、三刀屋肥育センターの「吉七号」が出品されました。さすが全国大会だけに出品牛のどれもが素晴らしく、特に、宮崎、鹿児島といった九州勢が群を抜いた結果となりました。雲南市からの出品牛も入賞こそ逃したものの、その健闘を称えたいと思います。

島根の出品牛に比べて他県は体が段違いに大きいことが素人目にもわかり、他県の和牛振興の熱意を強く感じました。我が島根県も従来の考え方に囚われない対策が急がれます。

そうした努力による和牛振興、安心・安全・新鮮な農産物は、田舎の魅力、雲南市の宝です。世の中、今偽装ばかり、まさに偽装社会です。都市と地方の格差が言われていますが、地方にはこうした本物があります。本物創りに磨きをかけるまちづくりは、都市部から羨望されるまちづくりに繋がると確信します。



合併4年目を迎える職員集会にて（11月1日）

差別のない明るく住みよい社会の実現に向け

過酷なコースで体力と技術競う